小児外科　卒後臨床研修プログラム（基本外科（必修／選択））2～7ヵ月コース

Ⅰ　研修プログラムの目的及び特徴

目的

外科専門医を目指す医師、小児科医を目指す医師、ならびに小児医療に関心がある医師を対象に、研修プログラムを通して小児外科疾患の診断、治療に関する基本的知識および技能を修得することを目的とする。

特徴

1．外科ならびに小児医療における小児外科の役割について認識する。
2．小児は成人と異なった機能的、形態的特殊性を有することを学ぶことができる。
3．小児外科は、消化器疾患、呼吸器疾患、泌尿生殖器疾患、悪性固形腫瘍と幅広く扱っていること、さらに胎児から成人まで時系列でみていく全人的医療であることを知る。
4．小児の診療を行う際には、家族背景も念頭におくことの重要性を学ぶ。
5．日本の医療システムの現状、特に小児医療の矛盾、問題点を考える良い機会となる。

Ⅱ　研修プログラム責任者

プログラム総括責任者：　菱木知郎（教授）

Ⅲ　研修指導医

研修担当責任者：　菱木知郎（教授）

指導医：　照井慶太（准教授）

1．術前術後管理

（1）体液・栄養管理

照井慶太（准教授）

（2）呼吸管理

照井慶太（准教授）

2．新生児外科疾患

（1）上部消化管（先天性食道閉鎖症、先天性腸閉鎖症、消化管穿孔等）

武之内史子（診療講師）
小松秀吾（診療講師）

（2）下部消化管（ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形等）

武之内史子（診療講師）

3．日常的疾患（鼠径ヘルニア、腸重積症、虫垂炎等）

小松秀吾
川口雄之亮（助教）

４．肝胆道疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症等）

照井慶太（准教授）

川口雄之亮（助教）

５．泌尿器疾患（膀胱尿管逆流症等）

武之内史子（診療講師）

川口雄之亮（助教）

６．外傷・救急

小松秀吾（診療講師）

川口雄之亮（助教）

７．腫瘍（神経芽腫、ウイルムス腫瘍、肝芽腫等）

菱木知郎（教授）

武之内史子（診療講師）

小松秀吾（診療講師）

８．先端医療（胎児医療、再生医療、遺伝子診断、　遺伝子治療、在宅医療等）

菱木知郎（教授）

照井慶太（准教授）

武之内史子（診療講師）

小松秀吾（診療講師）

川口雄之亮（助教）

研修協力病院

千葉県こども病院	小児外科	担当責任者	斎藤　武
松戸市立総合医療センター	小児外科	担当責任者	松浦　玄

Ⅳ　研修プログラムの管理・運営

研修医は、２年目に２～７ヵ月の研修を選択できる。

研修期間中は各施設の指導医によって教育、評価が行われる。

Ⅴ　募集定員

２年目：２～７ヵ月コース　２～４名

Ⅵ　教育課程

１．期間割と研修医配置予定

選択科期間に２～７ヵ月間の小児外科研修を選択することができる。

２．到達目標と研修内容

◆到達目標

小児外科診療に必要な基礎的知識を習熟し、臨床応用できる。

（１）小児外科の特殊性を理解

・小児の生理学的・解剖学的特殊性を理解する。

・上記に基づく病態の特殊性を理解する。

・年齢による疾患の特殊性を理解する。

（２）小児外科疾患の理解

・小児外科で扱う消化器、泌尿器、呼吸器、生殖器疾患について簡単に説明できる。

・日常的小児外科疾患（鼠径ヘルニア、虫垂炎、腸重積症など）の診断、術前説明、手術法、術後管理を理解し、説明できる。

・小児外科領域の救急疾患を理解し、適切な応急処置と専門医への紹介ができる。

（３）診断・治療計画の立案

・患児・家族と適切なコミュニケーションをとり、問診と理学的所見の採取を行なうことができる。

・収集した情報を整理・理解し、問題点を抽出できる。

・問題解決のための治療計画をたてることができる。

・問題解決に必要な文献の活用や他の医療従事者との適切な討論ができる。

◆研修内容

研修２～７ヵ月

（１）研修すべき主な診断・検査法

・小児の身体診察

・一般血液、尿検査

・消化管造影

・尿路造影

・超音波検査

・X線読影

・CT読影

・MRI読影

・RI読影

（２）研修すべき基本的手技

・静脈確保

・採血

・導尿

・創部消毒法

（３）周術期管理

・周術期の輸液管理を行なうことができる

・経腸栄養の投与と管理ができる

・抗菌薬の適正な使用ができる

・術後合併症に対処できる

（４）外科的クリティカルケア

・心肺蘇生法

・中心静脈カテーテルの挿入と管理

・レスピレーターによる呼吸管理

・DICの診断と治療

・抗癌剤の有事事象への対処

（５）小児外科手術に術者または助手として参加する

Ａ．体表

・臍ヘルニア

・鼠径ヘルニア

・陰嚢水腫

・停留精巣

・包茎

・皮下腫瘍

・臍帯ヘルニア

・腹壁破裂

Ｂ．胸部

・開胸、閉胸

・肺のう胞性疾患

Ｃ．横隔膜

・横隔膜ヘルニア

Ｄ．消化器

・開腹、閉腹

・腹腔洗浄

・ドレナージ

・肥厚性幽門狭窄症

・小腸閉鎖、狭窄症

・腸重積症

・虫垂炎

・ヒルシュスプルング病

・鎖肛

・人工肛門造設、閉鎖

・胆道閉鎖症

・先天性胆道拡張症

Ｅ．腫瘍

・腫瘍生検

・腫瘍摘出

Ⅶ　週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	病棟回診、外来診察	特殊外来、病棟回診
火曜日	病棟回診、外来診察	病棟回診
水曜日	画像・術前カンファレンス、手術、病棟回診、造影検査	手術、病棟回診、研究カンファレンス、抄読会
木曜日	病棟回診、外来診察	内視鏡検査、病棟回診
金曜日	症例カンファレンス、手術、病棟回診、造影検査	手術、病棟回診

Ⅷ　評価方法

１．研修医は研修終了日に研修のまとめをレポートとして提出する。

２．指導医は、研修医の到達目標に対する評価を行う。

３．研修医は、到達目標に対する自己評価を行う。

４．研修医は、施設の指導に対する評価を行う。

５．総括責任者、担当責任者による総合評価が行われる。